

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	小野市立小野東小学校 教諭 藤野 政憲	研究グループ名 ( 人権・同和教育研究会 )
-----------------	------------------------	---------------------------

研究テーマ分類番号( 13 )

(1)研究テーマ
ぶれない同和・人権教育の創造 ～同和教育の教訓を学び合う～
(2)研究経過及び具体的な取組
<p>7月24日(火) 学習会：「人権・同和教育に求められているもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施場所：於：学校厚生会北播活動センター</li> <li>・内 容：『同和・人権教育「つながろうや」』の読み合わせ 同和教育って何? 同和教育と人権教育 「寝た子を起こすな!」という考え方... 同対法、解放学級 など</li> <li>・意見交流： 自分と部落差別問題、自分と同和教育 各校での同和教育は...?</li> <li>・成果と課題： 同和問題についての認識が深まった。特に、若手教員にとっては、未知のことも多く、よい研修の場となった。 各校での同和教育の実践には、課題がある。同和教育としてのカリキュラムが十分機能していない。 まずは、同和教育を知ること、その必要性を実感することが大切であると確認した。 次回の学習会では、『同和・人権教育「つながろうや」』を活用して学習することとした。</li> </ul> <p>8月28日(火) 学習会：「人権・同和教育に求められているもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施場所：学校厚生会北播活動センター</li> <li>・内 容：『同和・人権教育「つながろうや」』の読み合わせ 同和教育と道徳 糾弾とは 立場を明らかにすること 子どもの権利条約</li> <li>・意見交流： 同和教育をどうとらえるか、道徳、人権教育とともに、どう位置づけていくか 地域との連携をどのように図っていけばいいか</li> </ul>

- ・成果と課題： 道徳や人権教育と同和教育のつながりについて資料から学び、議論することができた。ある程度の整理をすることができた。

目の前の子どもたちに、どのように同和教育をおこなっていけばいいか、まだイメージができていない。これは学校だけの問題ではなく、地域との連携、共通理解も重要となってくる。

次回は、講師を招いての学習会を開催することとした。

#### 11月15日(木) 講師を招いての学習会

- ・実施場所：学校厚生会北播活動センター

- ・テーマ：差別は、「差別を受ける人」だけでなく  
「差別する人」をも『生きづらく』させる  
～『つながる同和人権教育』をめざして～

- ・講師：稲美町立稲美中学校 教諭

- ・内容： 「差別ってなに？」 「差別は誰の問題？」  
同和教育は後退したか？人々の部落問題理解は後退したか？  
「わたし」のこと

子どもたちと一緒に頑張っていきたいと思っていること

- ・成果と課題： 今回は、メンバーを拡大して開催した。多くの参加者があった。

悪質な差別事件が後を絶たない現状を詳しく教えていただいた。「寝た子を起こすな」では何も解決しない。

差別観念を教育・啓発で払拭するためのポイントは、「差別は消すことはできない」「差別観念は日常生活の中で伝えられる」「自然になくなることはない」ということだと教えていただいた。これらのポイントをもとに、私たちはこれからどのような同和教育をおこなっていくべきなのか、考えていかなければならない。

次回は、「これまでおこなってきた同和教育」「これからやっていこうと思う同和教育」について意見交流し、今後の同和教育の方向性を探っていく。